

第1回 飯綱町総合戦略推進会議 会議録

平成27年8月28日（金）19:00～

飯綱町民会館 ホール

日 時：平成27年8月28日（金）19:00～21:15

場 所：飯綱町民会館 ホール

日 程

1. 開 会 （19時00分）

2. 町長あいさつ

3. 委員紹介及び委員委嘱

4. 会長及び副会長選出

5. 会議事項

（1）国の「人口ビジョン」及び「総合戦略」の概要

（2）飯綱町における人口の現状及び将来推計

（3）飯綱町総合戦略について

－意見交換－

（4）今後のスケジュール

5. 閉 会 （21時15分）

出席者：別紙のとおり

1. 開会（事務局）

2. 町長あいさつ

急速に進む人口減少、高齢化社会、そして少子化の積み重ねと町外への若者の流出により若年女性が少なくなり、町の中では、子どもの生まれる数が急速に減少しています。これからは、これまでの社会が経験したことのない「新しい時代」に突入していきます。

国が進める「まち・ひと・しごと創生法」による地方創生の流れもありますが、この「新しい時代」に対応する「飯綱町が進むべき道」を町民全員でどう乗り切るかを考える必要があります。

今持っている飯綱町の資源・魅力を最大限活用する、新しい技術・考え方を積極的に取り込む、世界で起こっている変化を感じ取る、女性が働きやすい、子どもを育てやすい環境にする、そしてビジネスで勝つ。そして、地域でみんなで助け合い安心な暮らしを守る。

このような思い中で、町は、産官学金労言との連携により、当面、この先5か年の計画として総合戦略の策定を進めており、飯綱町らしい総合戦略にしたいと考えております。

本日、第1回の飯綱町総合戦略推進会議を開催する運びとなりましたが、まさにこの場が「住民と産官学金労言」による飯綱町の総合戦略策定の場となります。ご参画の委員の皆様方の各分野からのご提言等を活かし、飯綱町らしい総合戦略の策定ができますよう、ご審議のほどよろしくお願い申し上げます。

3. 委員紹介及び委員委嘱

- ・お手元に配布してあります委嘱書をもって、交付に替えさせていただきます。
- ・事務局より委員 19 名の紹介

4. 会長及び副会長選出

■事務局

要綱では、互選とされておりますが、事務局案をご提示させていただき、合わせご承認頂くという形でよろしいでしょうか。ー各委員了承ー

それでは、会長には飯綱町観光協会長の土倉委員、副会長には、飯綱町農業委員会長の丸山委員にお願いしたいと思います。

5. 会議事項（議長：会長）

■会 長

事務局からの説明のとおり、この会議は、飯綱町総合戦略の策定、推進、検証を審議する会議でございます。本日の会議は、総合戦略の検討状況を事務局より説明させていただきますので、ご意見等をいただきたいと思います。（1）から（3）について説明をお願いします。

（1）国の「人口ビジョン」及び「総合戦略」の概要

（2）飯綱町における人口の現状及び将来推計

（3）飯綱町総合戦略について

■事務局

（1）「人口ビジョン」及び「総合戦略」の概要について

資料 3P、国の人口ビジョンは、昨年 12 月に策定されています。既に策定済みの地方自治体もありますが、多くの自治体はこれから策定となります。地方人口ビジョン、地方版総合戦略の策定については、地方が自立につながるよう自ら考え、責任を持って戦略を推進し、国は情報支援、人的支援、財政支援を切れ目なく展開する。

資料 4P、国の長期ビジョンと総合戦略の全体像です。人口減少社会に入り、現在 1 億 2 千万人程度の人口ですが、国は 2060 年に 1 億人程度の人口確保を目指しています。

国の総合戦略は、4 つの基本目標、「地方における安定した雇用を創出する」「地方への新しい人の流れをつくる」「若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる」「時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する」を掲げ、これらに従って施策が提示されています。

資料 5P、県の人口ビジョン及び総合戦略の骨子案です。現在策定中であり詳細な施策は示されておりませんが、県の基本目標等は、国の目標に沿って総合戦略の策定を進めている状況です。

（2）飯綱町における人口の現状及び将来推計について

飯綱町の総合戦略の検討状況について説明します。資料 4 飯綱町の人口推移（概要）資料 1 0P、総人口ですが、飯綱町は、全国・長野県より早いスピードで加速度的に人口が減

少し、国内・県内順位も悪化している。1995年の町の人口は、13,645人で県内77市町村中30位、2015年では、11,857人で県内33位です。

資料11P 高齢化率・65歳以上の人口割合ですが、飯綱町は、全国・長野県より高い水準かつ早いスピードで高齢化し、国内・県内順位も悪化している。1995年は、高齢化率20.4%県内順位29位、現在は33.6%県内順位48位です。

資料12P 若年女性率です。ここでは20歳から39歳と定義しました。飯綱町は全国・長野県より低い水準で若年女性の割合が減少し、国内・県内順位も悪化している。1995年は、10.8%県内順位37位、現在は、8.2%県内順位51位です。

資料13P 出生率です。飯綱町は全国平均より高く長野県ではとても低い水準で合計特殊出生率が推移しているが、近年は改善傾向にある。1998年～2002年では、1.50県内順位53位、2003年～2007年では、1.34県内順位77位で最低ですが、その後回復し、2008年～2012年では、1.40県内順位73位で依然厳しい水準です。

資料14P 転出入の状況です。飯綱町の中と外でどのように人口移動が起きているかを示しています。飯綱町は、周辺市町村と比べても10歳から29歳の流出が高めに推移しており、また、長野市へ依存度が高いことが読み取れます。

資料15P 地区別の人口分析です。地区別にみると、福井団地が人口増加傾向にあります。一方、平出、栄町、毛野、普光寺中部などは人口減少傾向にあります。

資料16P 人口推計です。こうした現状を踏まえて、どのように人口を推計するのか。国立社会保障・人口問題研究所の推計では、2015年では11,236人ですが、2060年には5,143人にまで減少するという厳しい数値が示されています。このような状況を克服するために総合戦略を策定するわけですが、町の目標は、地方創生の推進により以下の項目を達成し、2060年の人口規模を7,700人とします。目標達成に向けて、働き方の改善及び子育て支援により出生率を2040年に2.1まで改善させる。町の魅力を高め、2030年には転出入の差を0とし、以後、転入超過をめざす。健康長寿施策を推進し、健康寿命を改善する。このような目標をもって推進することにより、2060年には、7,766人、国の推計に比べ2,623人ほど増加となる推計をしています。

(3) 飯綱町総合戦略について

資料26P 資料5 地方創生に係るこれまでの検討状況を説明します。町民全員を対象に施策を募集し、29の施策案が提案されました。新成人、高校生、中学生、小学6年生を含む町民延べ2,374人に対して、結婚・出産・子育て・地方移住・まちづくり等に関するアンケートを実施し回答をいただいた。まちづくり企画会議で、女性・農業・商工業の3テーマについて、町民の若手中心に施策案を検討中です。現在、9施策が提案されています。町議会でも積極的に議論をいただいております。地方創生調査特別委員会を設置し検討されています。行政側では、町長を本部長とする飯綱町まち・ひと・しごと創生本部で

地方創生の取り組みにの方向性などを議論し、同本部の若手職員で構成するワーキンググループから14施策が、また、町職員全員を対象に施策案を募り、24施策が提案されました。周辺自治体との連携では、長野県、長野市、須坂市、中野市、飯山市、小布施町、高山村、信濃町、小川村と農業、子育て等の分野で連携による取り組みに合意しています。

また、金融機関では、地元金融機関との連携協議を随時実施してきました。長野地域活性化推進会議及び長野地域連携協議会に参加し、広域的な連携協議を行いました。町内では、農業者、商工業者、地元企業等との協議を随時実施しています。

資料27P資料6 これまでの取り組みを踏まえ、どのような総合戦略を策定するか、枠組み的な説明となります。国の基本目標を勘案して、飯綱町らしさをどこに求めるかが、総合戦略策定の鍵となります。例えば、最先端農業・都市近郊型農村への特化であったり、女性の活躍の場と子育て・教育環境の充実、暮らしの安心と新しいコミュニティの創造など、どこに飯綱町らしさを求め策定するかといった視点が大事かと思えます。

飯綱町総合戦略の基本目標案として、1. 地域への愛と誇りを感じられる飯綱町らしさの確立、2. 資源を活かした力強い地域産業の構築、3. 誰もが憧れる「ふるさと」の創造、4. 地域の未来を担う人づくり、5. 「共動」による持続可能なまちづくり、5つの目標案を提示しています。現時点での案でございますので、今後検討を重ねて参ります。

施策については、基本目標を基に展開していくわけですが、この詳細については、まさに戦略推進会議などの場を通じて議論を行って参ります。

■会 長

ただ今、事務局から人口ビジョン、総合戦略における国の概要、県の状況また飯綱町の検討状況及び総合戦略の全体の枠組み、考え方など説明がありました。ここまででご質問等ございますでしょうか。(質疑なし)

それでは、委員の皆さんから具体的なお意見、ご提言を伺って参りたいと思いますが、まず、今回特に飯綱町の特徴的な施策について、事務局から説明してください。

■事務局

先ほど紹介しました施策の提言や連携協議を通じて3つの事業を検討しています。

資料28P資料7をご覧ください。1つ目は、ICTを活用した最先端農業技術研究に関する実証実験事業です。事業目的及び内容は、「農業の担い手・後継者が不足し、耕作放棄地が拡大している現状を改善するため、関係機関と連携して、実ニーズを基にICT活用型の農業技術研究及び実証実験を実施する。その結果を活用して、効率的で美味しい栽培方法の確立、商品開発、ブランド化、販路開拓、観光業活性化、人材育成につなげ、「儲かる農業」の基盤を作る。同時に、あらゆる年代の者が気軽に農業を始めることができるようユニバーサル型農業の在り方に関する検討を行う」という内容でございます。

まず流れとして、ICTを活用して研究開発を行い、農地、現場で研究結果を実証実験で検証し、その検証結果を基に栽培方法であったり、商品開発等につなげ、儲かる農業の基盤の確立を図ります。ユニバーサル農業は、どんなか方でも農業を始められるよう間口

を広げる検討でございます。また、販路開拓については、海外展開が大事であると考えております。このような枠組みの事業ができないか、提案でございます。

次に資料29P資料8、子育て両立する働き方改革事業でございます。「女性が安心して子どもを産み育てられる環境を構築するため、子育てと両立する働き方の在り方を検討するとともに、働き方改革にチャレンジする企業等を応援する事業を実施する。従来の男性中心の職場環境を改め、男性も家事や育児に積極的に参加することで、女性の職場復帰や社会進出を促す。具体的に取り組み（在宅勤務、短時間勤務など）を試行・実践する企業を支援する。」といった事業の提案であります。

従来、男性は仕事で忙しく、子育てしない。女性は子育てが忙しく、仕事をしたくてもできないという状況があり、これらの状況を改善するため、先進事例、職場の働き方改革及び男性の意識改革など検討会の実施し、働き方改革にチャレンジする企業等を応援し、安心して子育てができる環境を構築するという施策提案でございます。

次に資料30P資料9です。農村地域における社会活動等参加型CCRC創設事業です。最新では、(生涯活躍のまち)をCCRCの後に加え事業名としています。CCRCは、アメリカなどで高齢者を中心に生き生きとしたコミュニティを形成している Continuing Care Retirement Community の略語です。事業としましては、「少子高齢化・人口減少が進展する中、行政サービスの水準を維持しながら、中高年層を含む全ての世代が生き生きと暮らす地域社会を形成するため、大学・金融等と連携して、農村地域における社会活動等参加型CCRCを創設する。」といった事業内容の提案です。報道等では、CCRCは移住にかなり重点を置かれていて、一部では姥捨て山など悪い印象の報道もございますが、元々CCRCには移住の要素はあまりなく、コミュニティ形成が主眼であり、高齢者が元気に暮らせる共同体のあり方や方向性はどうかといった検討が主眼です。

このような検討をするため、社会活動ごとの研修会を実施して、必要となる資材等を無償又は安価で貸与するなどの仕組みを設け、27年度は、町内に潜在する中高年層等の「力」や「意欲」を見極めるため、既存施設を活用して試行的に支援を実施し、次年度以降は、社会活動に参加した中高年層に対し、町内で利用可能な商品券等との交換が可能な「ポイント」を付与する制度の創設という枠組みで、具体的には、除雪、草刈、農業、配食、学習支援、保育見回りなど、人口が減少していく中で行政サービスの水準の維持が課題となりますが、このような活動について中高年層の力を借り、その活動に対し、金融、行政、大学がバックアップ、病院等のケアも活用しながら進める事業構想です。

■会 長

飯綱町の特徴的な3つの施策についてご提案いただきましたが、各施策ごとにご意見を伺いたいと思います。最初にICTを活用した最先端農業技術研究に関する実証実験事業についてご意見を申し上げます。

■委 員

2年前に信州大学工学部で農業や食品の産業に関係する先生が何人いるか調べたら1

2人程おられました。その先生方を中心として、食・農産業の先端学際研究会を立ち上げました。それぞれの研究分野では得意としておりますが、横断的に異分野の人たちが集まる研究会です。スタートして2年たちましたが、工学部が、農業や食品などに関心を持ったということに対して、文部科学省、農林水産省が興味を示しており、農水省の産学連携推進室長と今後の農業における大学のあり方について協議をしております。現在、この2年間の成果をまとめていますが、農水省から補助金の交付を受けて研究を進めていますが、ICT、インターネットを介して農業現場を自動的に監視したり、肥料を自動的に施すことについては大した技術ではないのですが、今狙っていますのは、農学部の先生が開発しました夏秋イチゴといいまして、品種は信大BS8-9といいますが、農水省に登録されています。特徴として、果肉が赤くて非常に糖度が高い。このイチゴを1年間連続して作ろうと実験をしており、ほぼ見通しが立ちつつあります。こういった新しい栽培技術、新しい品種をぜひ農業が強い飯綱町で広めさせていただければと考えています。現在、実証実験を行っており、ブドウを1年間カメラで監視し、同時に気象条件等についても遠隔で見ることが可能です。当然、イチゴについては、施設栽培ということになりますが、地下水が豊富であれば、地下水の水温が14度から16度ですので、この熱を利用して自然エネルギーの活用も並行して新たな栽培システムが安曇野でスタートしていますが、1年間を通しまして石油換算すると、エネルギー消費量が20分の1に減ったという実証データもありますので、そういった新しい技術を飯綱町に提供できればと考えております。

■会 長

新しい技術を積極的に飯綱町でも活用して、また、提供したいとの思いもいただきました。

■委 員

私どもワイン用のブドウを約10ha 農業生産法人で24年ほど前から栽培しています。一部コンピュータを使って自動的に気温を毎日記録して科学的に評価できるよう取り組んでいますが、十分な活用している形ではありません。今、リンゴでブルームリーや高坂林檎地元のふじをブレンドしてシードルをつくっています。特にふじだけでなく、ブルームリー、江戸時代から伝わる高坂林檎をブレンドしますと、大変奥深い、ソムリエさんに評価の高いシードルとなっています。特に高坂林檎は収量が少ないので、すぐ売り切れてしまう状況で、一つのブランドとして広めていただきたいと思います。製造、販売については、良いものを作って必ず売り切るという自信はございます。町も一生懸命取り組んでいらっしゃるのと一緒に取り組んでいきたいと思っております。現在、近隣の村からブドウを購入させていただいており、生産者をご紹介いただいて村で生産されるかなりの量のブドウを契約で購入させていただいていますが、理想を言えばもう少し飯綱町の方で契約いただける農家がおられればありがたいと思っております。価格は、加工用ということで決して安いということだけでなく、高坂林檎やブルームリーも加工用を超えた価格で購入しており、ワイン用のブドウ

も良いものについては、適正に評価させていただいております。私どものレストランでは、飯綱町の農家よりの日々の野菜を調達させていただいて、身近では、シェフが直売所「さんちゃん」へ行き、知り合った農家に例えばイタリア系の野菜の栽培をお願いしたり、小さな事ですが、そのような取り組みも行っております。ICTを活用した取り組みですが、新しい技術などありましたら、未来に対して農家の方も不安があらうかと思っておりますので、ぜひ優れた技術がありましたらご指導いただきたいと思っております。

■会 長

サンクゼールさんは、飯綱町一番のブランドということで、町の農産物の価値を高めるということでは、お互いに協力しながら取り組むことが大切であると思っております。

続いて、ICTの関連でご意見をいただきたいと思っております。

■委 員

ICTを活用した最先端農業は、最初お聞きした時は面白そうだと思っておりました。実は、私も同じようなことを以前から考えていたこともあり、とても興味深く読ませていただきました。ICTは、インフォメーション アンド コミュニケーション テクノロジー (Information and Communication Technology) の略ですが、元々ITにCが入ったのには理由がありまして、インターネットは、情報伝達をするためのテレビとあまり変わらない捉え方がありましたが、そうではなく双方向にコミュニケーションをとるところこそがITの活用方法ではないかという考えがあります。最先端技術を使って、例えばGPSデータにより、ドローン(小型無人飛行機)を使ってすべて農薬を散布するなど作業効率を上げることも一つの技術だと思っておりますが、私の会社はゲーム会社なので、エンターテインメントを業としていますが、例えば、東京とか都会の人たちに対して、農業の活動をエンターテインメントとしてICTを使って提供するというのも面白いのではないかと思います。一つ例を挙げるとクレーンで人形などを取るUFOキャッチャーというゲームがありますが、カメラ映像をインターネットで配信して、インターネット上でキーボードを操作してキャッチすることが実際行われていて、ビジネスとして成り立っています。例えば、ユーザーが参加する形で自分の好きなものを情報を見ながら、農家の方と相談しながら栽培していく体験をオンラインを通して提供できたら面白いと思っております。最終的に収穫するときは、実際に自分の手で収穫していただく。最初、まずはインターネットのオンライン上、最終的にはお店や畑だったりオフラインの場所に来てもらうことが、今のお客さんと呼んでくる仕組みの一つです。そんな感じでICTを上手く使えたら面白いと感じました。

■会 長

ITにCが入ることで、そんなに違うのか今気づきました。オンライン、オフラインを含めた農業とか想像もしなかったので面白い提案だと感じました。

それでは、続いて地元農業の視点からご意見をいただきたいと思っております。

■委 員

将来的な視野でICT活用による農業施策は必要であると認識しております。とりわけ直

販の比率を高めるといった部分でも、飯綱町は冬場になると雪の関係で生産が続かないというハンディを負っておりますので、ICT活用による提案された施策については、前向きな形で検討していく必要であると考えます。ただ、長年培われてきた飯綱町の立地条件を活用した農業施策も必要でありますので、あわせて農業施策の充実を検討していただきたいと思います。技術的な部分で今後どのように進めていくか課題であると思いますが、前向きに進めていくことが必要であると考えます。

■会 長

それでは、続きまして、各地の様々な農業施策の視点からご意見を伺いたいと思います。

■委 員

飯綱町では、6次産業化推進会議のコーディネーターをしております。直売所や地域おこしの全国的なネットワークをつなぐ団体として、新聞で紹介させていただいております。ICTという先端分野で、農業の未来を切り拓く施策だと思います。委員さんからもお話がありましたが、すでに取り組んでいる方がいまして、体験農園の様子をICTを通じて双方向で伝え、収穫は自分で行うという取り組みが全国で徐々に広がっています。飯綱町は環境のいいところですので、先ほどのご意見は可能性としては十分あると思います。私は、直売所とか、小さな農業のネットワーク、地域おこしのつながりという分野で生きていますので、先端技術の分野も大切ですが、今後の飯綱町の未来を考えると、既存の住民の皆さんの人のネットワークをどう活かしていくか、ここに既に存在している農業、観光、製造業など、人と人、社会と社会のつながりをどのようにつく出しながら未来へ向かっていくのかが鍵になると思います。先端技術の開発はもちろんですが、CCRCの説明がありました。飯綱町の住民の皆さんが力を合わせ、農業を中心とするこの町の産業をどのように新しく作るのか、に光を当てて進めていく必要があると感じます。先端技術の施策も人の生き方、つながりの領域に話を広げながら進めていくと酔うものになると感じました。

■会 長

人と人とのつながりをICTにのせてということでした。

■委 員

ICTを活用した最先端農業技術の開発は、大変意欲的で良い面があると思いますが、果たしてどのように取り組んでいくか。実際には、研究開発は色々な機関があると思いますが、実証実験を行うときに、どこの農家、会社が行うか課題かと感じます。もうすでに取り組んでいるIT関連企業もありますので、例えば、そういった企業を誘致する。飯綱町は、リンゴ、米など非常に優秀な作物がありますので、それにターゲットを絞って参入希望の企業に農地を提供して取り組む形で実施する方向が良いのではないのでしょうか。

販路についてですが、海外へ販路開拓も説明がありましたが、新しい販路を開拓して、かつ儲かるやり方をしないと儲かる農業にならない。したがって、新しい販路で高収益を得られる取り組みが必要であると思います。それと合わせブランド化を図る。ブランド化

に関しては、私もリンゴの輸出に取り組んでいますが、海外のデパートでも物産展を行っています。飯綱町のリンゴが出される、すごくおいしい、評判がいいからと言って、すぐにはブランドにはなりません。ブランド化するには、長い年月と継続的な取り組みが必要です。そして、オール長野という考え方で、時間をかけて長野というブランドを育て、その中で、リンゴ、米であれば飯綱というブランドがある、他の産地とのコラボという取り組みでもよいかと感じています。ユニバーサル型農業については、誰でもマニュアル化された農業で取り組めるという解釈でよければ、都会の就農希望者、田舎暮らし希望者に非常によい施策であると思います。全体的にICTを活用した最先端農業の施策は意欲的でいいと感じますが、方法論のところ課題があると感じます。

■会 長

ご指摘のあったユニバーサル型農業の受け手の件に関して、事務局で何かございますか。

■事務局

新たに農業を始めるにあたって、なかなか難しいということもあり、チェックポイントなどある程度解説されていたり、一歩進んで障害のある方でも農業ができるといった参入障壁を少しでも取り除くことが必要であると考えています。具体的には今後の検討となります。

■会 長

他にご意見ございますでしょうか。

■委 員

自分の家族を考えたとき、子どもは進学などで都会へ、そこで就職し帰ってこない。しかし、結婚し孫たちと生まれた家に帰省する。その孫世代にターゲットを当てて親の生まれたふるさとに帰って来てもらう。これがふるさと回帰の考え方の元となっています。代々農業を営んできた農地を耕作放棄地にするのではなくて、このような大きな財産を活かす方法を地域、行政で考えていただき、資産や元気を生み出すことで生活が成り立つと思います。今年ジャガイモを600個蒔いて、子どもたちに声をかけて芋掘り大会を行った。子どもたちに楽しんで農業に触れることも大切だと感じています。

■会 長

地域で魅力ある農業、自分の足元からの農業に対するご意見をいただきました。他にご意見いかがでしょうか。

■委 員

今のご意見を聴いて、お孫さんとの繋がりも大事だと感じました。ここにいない人たちとの繋がりをつくることもICTの一つのミッションであると思います。例えばSNSと言われるフェイスブックやラインだったり、これらを活用して実際に田舎でどれだけ魅力的な事が行われているか発信することも大事なことだと思います。例えばPath（パス）というSNSがあつて、家族や親戚や友達を限定して自分の今の状況を公開していくものが流行っています。これを家族で使い、おじいちゃんが収穫した状況などを家族に向けて

発信すると、スマートフォンなどで家族が見れる、そのようなすごく楽しいネットワークができます。これもICTの利点ではないかと感じました。

■会 長

他にご意見いかがでしょうか。

■委 員

農産物の輸出に関して意見がありましたが、欧米諸国へ日本の農産物を輸出するには、グローバルギャップをクリアしないと輸出できない。今は東南アジアへの輸出という戦略ですので影響ないですが、新興国も間もなくグローバルギャップの導入になっていくだろう。飯綱町では、グローバルギャップをクリアしているものはないと思います。ブランド化、国際的な輸出を考えた場合、栽培技術を一から見直し再構築する必要があります。グローバルギャップをクリアする、もしくはオーガニックにいくという重要な問題に直面するようになります。遠くを見つめながら、農業生産の技術そのものをしっかり定着させない限り輸出は実現できないということを皆さんの共通の認識をもって検討する必要があります。

■会 長

それでは次に、子育て両立する働き方改革事業について、ご意見を伺いたいと思います。

■委 員

飯綱町で教育環境あり方検討委員会の委員長を務めさせていただき、2年間かけて教育環境あり方の報告書を作成させていただきました。主なテーマは小学校、保育園をどうするかを素案を作りました。現在、統廃合の案件について進められていると思います。報告書のまとめの中の一文を紹介しますと、「飯綱町のいたるところに子どもたちの元気な声が響き渡る」、そのようなまちづくりにつながる教育環境のあり方が求められる。それには、町内各地の個性的で魅力的な地域の営みの下に、地域に支えられて子育てと教育ができる環境を整備すること、さらには、単に少子化に対応するためでなく将来にわたって、夢と希望のある子育てと教育を実現していくことが必要である。と述べさせていただきました。実はこの委員会では、今の小学校をどうするかという議論でとどまってしまった。単に少子に対応するだけでなく、将来を見据えた子育てと教育環境をどうするかといった内容は、まさに総合戦略の中に含まれているのだらうと思います。町の人口推計を見ますと2040年で出生率2.1、そして2030年で転出転入超過を0（ゼロ）にするかなり高い目標になっています。それを達成するためには、若年女性が減っている現状を踏まえて、女性にとって魅力的なまちであるかどうか、大きなポイントになると思います。もっと端的言うと近隣市と比べてどうなのかということになると思います。ポイントを3つほど、1つ目は、町としての子育て新体制をどうするか。フットワークの軽さ、きめ細かさを前面に出した子育て新体制をつくる必要があります、大きな都市との違う点です。柔軟で対応力のある子育て支援、その中には休日保育とか病児・病後児保育、子育て支援センターなどがあげられますが、わずかなニーズであっても、そのニーズに応える町であることをアピ

ールする、実際に充実させる必要があると感じる点の一つ。人と人とのつながりについて、農業の分野でご意見ありましたが、子育ての分野でも当然必要になってきます。飯綱町は、孤立化することなく、子育てが楽しんでできる町だよ、ということ周りが実感するためには、地域の皆さんが高齢者もみんな子育てに参加していく機運が強くなる、そういった基盤がある町だと思います。これが2点目。3点目は、保育園、小学校、中学校の連携だと思います。保育園については、自然体験を徹底的にやる保育園になってほしいと思います。小学校は、生活力のある子供を育てる。自然体験と生活力の2つのキーワードを基盤に据えていけば学力はついてくるだろうし、これは、さまざまな調査結果においてもはっきりしています。保・小・中のつながりの中で、自然体験、生活力そして学力の3つの柱を高めていく教育の計画を、10年、15年かけて軌道に乗せていくことだと思います。子育てと両立する働き方改革事業の中に男性の意識改革がありますが、意識を変えることは簡単ではないと思います。子どもの時からの学び、意識付けが大切になってくると思います。小学生、中学生等が、小さい子どもとのふれあいにより将来の結婚、子育てに対して肯定的な気持ちが芽生えるという調査結果も示されています。自然体験、生活力プラス小さい子どもとのふれあい体験などを取り入れることで、特色ある教育を達成していくことが重要になってくると思います。女性だけではない訳ですが、子育てと両立する働き方など他の市町村と何が違うか、子どもを育てるなら飯綱町だよ、と周りが思うような保育・教育であってほしいと思います。

■会 長

ありがとうございました。女性の視点でご意見をいただきたいと思います。

■委 員

子育てのと両立する働き方改革事業が制度化されることにより、男女共に子育てと仕事を両立しやすくなるということが大切な事であると思います。私は、3人の子どもの子育てをしながら仕事をしております。子育てと仕事を両立する中で一番困ることは、突発的に起こる子どもの病気の看護です。この制度を利用して、子どもの看護のための休暇、早退しやすい企業が増えればと感じました。殆どの家庭で子どもの看護は、母親ではないかと思っています。実際、乳幼児の看護では、父親が1時間でも早く仕事から帰って来てもらえば大変有り難いし、看護者がもう一人いる、自分だけではないという安心感が生まれると感じます。兄弟姉妹の子どもの人数が増えると心配されるのがインフルエンザや感染性胃腸炎などの感染症です。登園、登校できないことで看護の期間も長くなり、看護の休暇などが男女共に共に取りやすい職場ができると、夫婦で協力、安心して子育てができると思いました。その制度がしっかり機能するためには、経営者、管理職の意識改革が大切であると感じました。

■会 長

続いてご意見をいただきたいと思います。

■委 員

現在、4歳と1歳の子どもの子育て真っ只中です。住民の目線から意見を述べさせていただきます。今、子育て支援センターは、町民会館の一室で行われていますが、子育て支援センターの常設していただきたいと思います。そこに、中高年者のサポートで一時預かり制度やお母さん方が気軽に会話ができるカフェなどが常設いただけたらと思います。先日、娘が唇を切るケガをしまして、急いで飯綱病院へ連絡しましたが、小児科がないので対応いただけないことがありました。緊急時に対応していただける小児科が町の中に必要であると感じました。

■会 長

続いてご意見をいただきたいと思います。

■委 員

就職する企業を選ぶ場合に、労働条件などで育児休暇なども重要な事であり、子育てに関係することや休暇など充実している企業は、魅力的な職場であると思いますので、そんな魅力的な企業がある飯綱町になってほしいと思います。

■会 長

他にご意見ございますか。

■委 員

子育てと仕事を両立するために、飯綱町で雇用の場が必要だと思います。また、子育て世代や移住者を増やすためにも雇用の場が必要です。雇用の場を増やす例として、宿泊施設を増やすことを提案します。いづなりリゾートスキー場周辺への設置や天狗の館の活用、空き家活用や農家の民泊など、宿泊施設充実に向けた取組みが必要だと思います。宿泊施設があると観光客も増えると思いますが、日頃、電車を利用しています。冬期間の電車には、外国人のスキー客が乗っていますが、牟礼駅では降りません。黒姫、妙高に行ってしまうようです。宿泊施設が充実していないことが原因として考えられます。宿泊施設をつくることで雇用の場が生まれ、雇用があることで子育て世代の方が飯綱町に転入して来られる環境ができると思います。子育てには必ず経済的負担が伴うので、負担軽減のため子どもの生まれた人数により、例えば1人であれば10万円、2人で30万円、3人で70万円という感じで子どもの人数により基準を設定することで魅力的なものになると思います。また、父親向けの子育て教育勉強会を増やしたり、飯綱町の企業において男性の育児休暇の推進や経営者への勉強会等により男性の育児参加へつながり、そして女性の育児への負担が軽減されることになり、魅力的な飯綱町になると思います。

■会 長

宿泊施設による雇用の場の創出や子育てに関するご意見でした。続いて、労働に関してご意見をお願いします。

■委 員

先ほどのご意見は重要なところを突いていると思いました。私は、労働組合委員長をしており、これは学校給食業務を民間委託のこう方向へ向かいかけたときに立ち上げた嘱託

職員の組合で、一方では正規職員の労働組合組織が別にあります。嘱託職員も賃金は安いですが、看護休暇や年休など労働条件が正規職員に近くなっているためやめる人は殆どいません。行政、経営者と労働者が、働き方について意見を出し合って決定していくことで、子どもに優しい、高齢者にも優しいまちづくりにつながると感じます。

■会 長

他にご意見ございますか。

■委 員

子育てと働き方について、産業界代表と親としての意見です。私も8歳と4歳の子どもがいますが、子育てをきっかけとして、3年前に飯綱町に移住してきました。飯綱町には、大地幼児教室という幼稚園があり、東京の知り合いの経営者の方から紹介されたのがきっかけでした。自然体験とか信州型自然保育の原点という意味では、飯綱町は既にコンテンツがあると思います。その中で日々、学ばしていただいているのは、父親の姿、母親の姿を見て子どもは育っていくとあっていて、東京に住んでいて、一番物足りないと感じていたのは、豊かな自然だけでなく、子どもとの関わりの時間です。子どもから見ると、仕事でお父さんが何をしているか分からない訳です。飯綱町で暮らしていると、お父さんが汗水たらして働いてくれたおかげでご飯が食べられる、という親と子どもたちとのつながりがあるということに感動しました。極端な話に聞こえるかもしれませんが、子育てと働き方を両立するという意味でいうと、そもそも働くという本質の部分を変えてしまうことはどうかと思ひまして、東京など都会で働いている人は何のために働いているか、週末にスキーに行く、カヌーで遊ぶ、田舎に行って癒しの時間を得るために働いたりする訳です。であれば、田舎に来て「持続可能なまちづくり」今世界的に言われていますが、食べる物、住む場所、光熱水費など全部が自分たちの中で最低限のサイクルで回る仕組みをつくれれば、働かなくてもいいのではないかと考えています。自分の食べる物は自分で作る。そして住む場所があって、そこで最低限生活できるエネルギーをつくっていけば、余分に働くというこをしなくても良いのではないかと考えています。趣味で使うようなカヤック、カヌー、自転車などシェアできる仕組み、取組みがあれば面白いと思います。実際「持続可能なまちづくり」として、無人島、離島をまるごと経済圏から切り離して、その中だけで生活しようとする挑戦が始まっています。飯綱町全部がそうなるということではなくて、将来のために一つのモデルケースをつくって、一つのブランドとして、飯綱町は経済圏から離れても持続可能なまちづくりをやっています、ということも面白いと感じました。それを実践するお父さん、お母さんは、働くことを通して子育てを楽しめるし、子どもと一緒に時間を最大限に生かせると思ひました。

■会 長

他にご意見いかがでしょうか。それでは、つづいて農村地域における社会活動等参加型CCRC（生涯活躍のまち）創設事業について、地元金融機関よりご意見をいただきたいと思ひます。

■委員

本日の夕刊に188か国調査した中で、健康寿命が男女共に日本1位という記事が載っていました。中高年層の力を活かすといった面から事業を捉えさせていただきます。このような高齢者の力を借りたり、近隣市町村の視点との連携も可能と考えています。支援をいただいた中高年層の方へのポイント付与制度についても、飯綱カード協同組合があり47社が加入していますが、ここの連携も面白いと感じています。商店街の活性化にもつながると思います。配食、買い物支援についてですが、飯綱町へ出店しているコンビニが独自に行っている宅配事業があり、これらとも連携を図りながら、配食サービスなども考えられると思っています。細部は今後検討するところはあると思いますが、地域に密着した金融機関として高齢者の見守り役として機能できると思いますので、前向きに連携を検討したいと思います。

■会 長

続いてご意見ををお願いします。

■委 員

人口減少問題が深刻になり、みんなが共通の認識をもって取り組んでいかなければいけない時代になったのかと感じています。難しい時代というか、夢を語って前向きに進めていかなければいけない部分と現実問題として自分たちが生活していかなければいけない部分とがあり、この辺をどのように結びつけるのかというところを本日の会議で感じました。ながの農協もぜひいろいろな面で協力をしてまいりたいと考えています。現実問題として何ができるか具体的に考えて参りたいと思います。

■会 長

他にご意見いかがでしょうか。

■委 員

飯綱町に企業、工場などが来ても従業員はあまり多くない。以前は、製造関係の工場などが信濃町、飯綱町にあったわけですが、撤退してしまい働く場所がなくなってしまった。また、以前のような企業、工場が来ていただければとみなさんの希望ではないかと思えます。ぜひ、企業に来ていただいてお母さん方が勤められるようなまちづくりに頑張りたい。国道の深沢信号機の改良工事が行われますが、深沢に共同店舗などができればという希望を持っています。

■会 長

他にご意見いかがでしょうか。

■委 員

ただ今、3つの提案について、委員の皆さんからご意見をいただいたわけですが、大変刺激的な、また具体的な提案もあり大変良かったと思っています。長野県でも総合戦略を策定しておりまして、その説明も事務局よりございましたが、提案のありました3つの施策も長野県で進めている方向と基本的に同じ施策もありますので、連携できる部分について

ては、検討して連携してさせていただきたいと思います。

■会 長

次に総合策定に関わる政策キーワードについて事務局より説明をお願いします。

■事務局

これまで町民の方や職員等から提案いただいた政策のキーワードを記載しました。具体化しているものもありますが、本日もご意見をいただいたキーワードも含めて紹介させていただきます。(資料3 1Pに記載の政策キーワードを紹介)

■会 長

政策キーワードを説明いただきました。飯綱町総合戦略推進会議設置要綱第7条のワーキンググループとして「まちづくり企画会議」が設置され、何度か話し合いが行われたようです。会議の状況等について報告いただきたいと思います。

■委 員

まちづくり企画会議は、2回開催しました。先ほど説明のありました政策キーワードなどを基にまちづくりについて意見を出し合いました。途中経過ですが、現在、女性、商工業、農業の3グループに分かれて話し合いをしています。現在までの各グループの状況について紹介します。

女性グループでは、①公園、絵本図書館、カフェ等が併設された「子育て支援センター専用施設」を整備し、元気な高齢者等を活用して、多様な子育て支援サービスを展開する。

②女性が暮らしやすい環境、男性が育児参加する意識改革のための一つとして、しがらみの強い地域コミュニティから、気軽でゆるい新しい地域コミュニティへの改革を進める。意識改革の勉強会や女性・若者を中心にした新たなコミュニティ・地域文化の創造を推進

③女性が働きやすい職場は、休暇が取りやすく再就職がしやすい環境。従って、雇用サイドの意識改革を進めると共に、働く女性にも職場にとっても良い新しい働き方・働き方改革を実践していく仕組みをつくる。

商工業グループからは、①駅周辺から役場周辺、住みやすい。学生や塾もあるし、商店の復活に取り組む。飲食店、工房だったり。飯綱町らしさの景観をしっかりと考えた商店の復活、かつ高齢者の住み替え施設、戸建てを整備し、町の中で住み替えができるシステムづくり。

②東京に1か月とかスモールスペースを貸すところが最近増えている。飯綱町で借りて活用したらいいと思う。あまり家賃がかからず、リスクも少ない。

農業グループからは、①販売、作業性、さまざまな問題がある。農業の担い手不足に対する施策を検討したい。

②作業効率を上げるため、最先端の農業技術を活用した農業の研究。摘果ロボット、ルンバ型草刈機など人手不足解消、作業効率アップを視点とした研究が必要。

③農産物の販売について、アドバイザーなど学ぶ機会をつくっていただきたい。

④飯綱町に人を呼び込む施策として、野外フェスなどを企画したらどうか。

以上のような意見が出されています。会議は今後も予定されていますので、本日の会議での意見を踏まえて次回のまちづくり企画会議に臨みたいと思います。

■会 長

活発に進められていることと思います。今後もよろしくお願ひします。先ほど政策キーワードの説明がありましたが、ご意見ございますでしょうか。

■委 員

今でも飯綱町は、北信五岳や志賀高原の山なみ、菅平も含めて圧迫されない美しい山なみがあり、里山の農村風景があります。今まであまり俗化しない施策をされてきたと思います。景観は、もしかしたら一番の財産であるとも思いますので、キーワードの中に農村景観、美しいまちづくり、里山の農村風景といったキーワードを入れていただきたいと思っています。

■会 長

全体を通してご意見がございましたらお願いします。

■委 員

これから素晴らしい取り組みが行われると思いますが、それをどのようにみんなに発信していくかを根底にした方がよいと思っています。キーワードして加えるのであれば、オウンドメディア、テレビのように一方通行ではなく、双方向または自分自身を自分でインターネットを使ってアピールしていく時代となっていて、1企業1メディアをもっている時代です。オウンドメディアで有名な企業がありまして、毎日そのネタを見に来るファンがいるわけです。その人たちは、その企業のファンになっていく。ファンになることでこのよう人がつくる商品なら買ってみたいと思う仕組みができています。そういう形で飯綱町ブランドを発信していくメディアをつくっていく感覚で、アピール動画もそうですし、子育てなどポリシーとかも含めて、そのメディアを通してどんどん配信していく仕組みを最初につくったらいいと思います。

■会 長

自ら積極的に発信していくメディアをつくる提案、キーワードは、オウンドメディアという提案でした。最後に事務局より今後のスケジュールについて説明をお願いします。

■事務局

今後の予定ですが、10月15日に第2回目の会議を予定しています。そこで初版となる飯綱町の総合戦略について実質的に決定していただくようになります。また、本日は時間が限られており、十分にご意見をいただけなかった点についてはメールでも結構ですので、事務局までご連絡いただければと思います。

また、この会議は公開で開催させていただきましたが、傍聴いただいたみなさんにもご意見いただける場合は役場企画課まで連絡をいただければと思います。なお、ご意見につ

いては、こちらの都合で申し訳ございませんが、9月18日（金）までにお願ひできればと思います。いただいた意見を踏まえて、総合戦略案を9月末までにまとめて、委員のみなさんにお送りしますので、何かお気づきの点がありましたら次回の10月15日までに、出来ればメールで送っていただければと思います。

■閉 会（副町長）

本日、第1回総合戦略推進会議において、貴重なご意見等をいただきありがとうございました。傍聴いただいたみなさんありがとうございました。ご意見等ございましたらお寄せくださいますようお願いいたします。

■会 長

それでは、以上で第1回飯綱町総合戦略推進会議を閉会します。

－終了21：15－

第1回飯綱町総合戦略推進会議出席委員

分野	氏名	職名等
金融機関	浅岡 義樹	ながの農業協同組合飯綱支所長
住民	天野 奈津美	まちづくり企画会議 女性部会代表
住民	池田 みずき	大学生代表
産業界	大手 智之	(株)アソビズム代表取締役 CEO
住民	帯刀 太基	高校生代表
産業界	久世 良三	(株)サンクゼール代表取締役社長
マスメディア	毛賀澤 明宏	(株)産直新聞社編集長
行政機関	小松 健一	長野地方事務所地域政策課
金融機関	島村 靖明	八十二銀行豊野支店長
大学等教育機関	白川 達男	信州大学工学部特任教授
産業界	滝澤 勝一	飯綱町商工会長
住民	瀧野 良枝	住民代表
産業界	土倉 武幸	飯綱町観光協会長
労働団体	中村 良雄	長野市給食職員労働組合委員長 (元連合長野副会長・元自治労長野県本部委員長)
住民	西村 啓大	まちづくり企画会議代表
大学等教育機関	西山 薫	清泉女学院短期大学副学長・教授
行政機関	丸山 成志	飯綱町農業委員会長
行政機関	峯村 勝盛	飯綱町長
金融機関	森 浩徳	長野信用金庫飯綱支店長

■事務局

所属課等	職名	氏名
飯綱町	参与	小澤 勇人
企画課	課長	荒井 和己
企画課地域振興係	係長	馬島 豊
企画課地域振興係	主幹	渋谷 陽一
企画課地域振興係	主幹	原田 大